第10号　2017.12.1

栃木市
教育委員会だより
絆

発行責任者：栃木市教育委員会
委員長 後藤 正人
住所：栃木市万町9-25
電話：0282－21－2461
FAX：0282－21－2689

‘対話’を重視した授業の様子

絆～対話のススメ～

教育委員長
後藤　正人

『スズ虫のリンリンさん！鳴き声が小さくなってきたけど、大丈夫？』『キュウリのキュー太君！のど渇いている？』『ザリガニのザリ君！どうして口から泡が出ているの？』さらに、電車の改札機に向かって『行ってきます！』などと命のない無機質なものにまでも、声かけをしている子どもの姿を見かけます。対象物と継続的にかかわり、対話することで相手をより詳しく観察・理解することができるのです。こうした体験を重ねていくうちに『元気ですよ！』『のどがカラカラです。早くおいしい水がほしいな！』などの相手からの声が次第に聞こえてくるのでしょう。このような子ども達の純真な声かけに“対話”の原点を見つけることができます。

ところで、このことは子どもの世界に限った話ではありません。以前、トマトづくり名人の畑に子ども達を連れて行ったことがあります。名人は真っ赤に育てたトマトを撫でながら『人間の赤ちゃんを育てるのと同じだよ』『毎朝、声を掛けてあげるんだ』『音楽を流すこともあるよ』等々、満面な笑みで話してくれました。子ども達は教科書には載っていない育て方の秘訣を真剣に傾聴していました。

宮沢賢治の作品に「狼森と笊森、盗森」があります。ストーリーの出だしは「農家の大家族13人が住み慣れた土地を離れ、深い森に移り住むことになった。早速、住む家や食糧が必要である～」から始まります。大家族の長は『腹が空いたので川魚を13匹捕っていいかー』『ここに家を建てるので木を少し切ってもいいかー』などと川や森に向かって対話をしながら、やがて森に定住するという物語です。どの事例も対象とは異体同心でありながら、同業同格で対話していることが分かります。

地球最古の大陸である西オーストラリアのピルバラ地方に住む原住民の長は『地球は人間のものではなく、人間が地球のものなのだ。万物は家族を結ぶ血のように堅い絆で結ばれており、常に母たる地球の声を聴くことだ』という言葉を現代に残しています。40億年という生命の進化をたどると、自然との共生（絆）の道を選択した生命体のみが子孫を残していることが分かります。私たちが緑の地球で幸せに生きようと願うならば、一度原点に立ち戻り、自然・もの・人と積極的に対話しながら、どのように絆を強化させたらよいかを立ち止まって考える時期に来ています。

今、私たちに必要なのは物質的な豊かさを求めるアクセルではなく、子ども達の姿に見られるような自然の事物現象と謙虚に対話しながら、深くかかわっていくためのシフトダウンの姿勢ではないでしょうか。学校教育では、コミュニケーション不足を解消する策の1つとして、“かかわり・対話”を重視した教育活動を推進しています。私たち教育委員も各学校や地域の方々と顔の見える対話をこれからも積極的に行い、絆を一層強めることで更なる魅力満載の栃木市にしていきたいと願っています。

栃木市教育ニュース

栃木市教育委員会では、**‘ふるさとの風土で育む人づくり・まちづくり’**をスローガンに掲げ、本市ならではの教育を推進しています。
今号の『栃木市教育ニュース』では、公民館課関連の話題を市民の皆様にお知らせします。

生涯学習部公民館課は、平成28年度の組織改編により、市内各地域の11公民館を所管する課として新設されました。主な事業としては、地域における生涯学習の拠点施設として、地域の実情に応じた各種講座を開設し、生涯学習の場を提供する公民館事業、子ども会育成会や地区女性会等の団体と連携を図りながら、団体等の育成・支援、青少年教育の充実、コミュニティ活動の推進を図る社会教育関係団体支援事業、地域住民と小中学校の交流を深め地域全体の活性化を図るとちぎ未来アシストネット事業等があります。その他、栃木公民館以外の栃木地域の公民館は、支所・出張所業務も行っており、各地域の公民館が種々の業務に取り組んでいます。

また、公民館課の今年度新規事業として、市民の多様な学習意欲に応えられるよう、市民全体を対象に地域を越えた住民の交流や自己教育を支援する「地域の魅力発見講座」を開設しています。今回は、これらの中から、以下の事業をご紹介いたします。

少年少女学級の開催

各地域の公民館では、主に地区内の小学生を対象として、土・日曜日や夏休み等の学校の休日を利用した体験教室を開催しています。毎年、各公民館が身近な生活や日頃の学習への興味を引き出すようなテーマを設定し、楽しく生き生きと過ごす機会を提供することで、思い切り遊び、学ぶ体験を通して子ども同士の交流や親子とのふれあいを深め、人との絆や生きる力を育むとともに、社会性に富んだ青少年の育成に努めています。

子どもサークル[栃木]
（ミニよしず作り）

ねずみもちパーク夏休みイベント[大平]
（流しそうめん）

いわふねチャレンジ工房[岩舟]
（押し花教室）

「大きな紙に、書道の墨で絵を描くのか、おもしれえ。今日はチャイムがないから、終わりまでできるかな…」と考える子ども。「人生の責任はほぼ終えた。これからは、関心のあった文化財めぐりでもして、そのあと仲間とランチでも行こう。」とたくらむ大人。

未知のものに対する好奇の目と創作活動中の緊張した高ぶりは、何歳であっても変わりません。太い筆であれ、はたまた白い新品であれ、公民館講座という墨をたっぷり吸い取って、心満たされるまでいたずらを楽しみましょう。

林　慶仁　教育委員

「地域の魅力発見講座」の開催

市内各地域の歴史・文化等について学び、地域の魅力を発見し、郷土への誇りや愛着心を育んでいただくため、各公民館が連携して市民全体を対象に開催している講座です。市内各地域の特性を活かしつつ、地域を越えた講座を開催することで、合併後の更なる市民の一体感の醸成に努めます。

11月から1月に掛けて計4回に分けて開催するもので、市バス巡りによる日光例幣使街道や巴波川源流の現地学習、とちぎ江戸料理の一つである柚餅子作り体験会、栃木の宿場に係る座学等、バラエティに富んだ内容となっています。

教育委員の活動日誌

教育委員は、栃木市の「教育の充実」のため、毎月の定例教育委員会をはじめ、様々な活動に積極的に取り組んでいます。『教育委員の活動日誌』では、その一部を紹介します!

総合教育会議

「総合教育会議」とは、市長と教育委員会が、協議及び調整することにより、教育施策の方向性を共有し、一致して執行にあたるために開かれる会議のことです。会議では、市長を議長に、毎回熱心な話合いが行われています。

どこかで読んだ「子どもと老人が陽気に笑っていない国に未来はない」の言葉が心に残っている。次の時代を担う子どもたちに希望を与え、懸命にその役割を果たしてきた老人たちに安らぎを与えられる社会。それが出来なくて、何の「豊かさ」であろうか。

市民に選ばれ、実行力を持つ市長を中心に、私たちは「子どもと老人が陽気に笑っている街」を目指して、真剣に考えていかなければならない。

福島　鉄典　教育委員

点検評価委員会

栃木市の教育に関する事業の充実を図るために**「点検評価委員会」**を開催し、学識経験者など外部の方から、意見を聴取しています。

その意見をもとに、教育委員会で協議して総合的な評価を行います。

今年は6月に3回開催し、平成28年度に実施された教育委員会の各事業について進捗状況を明確にし、成果・課題等を洗い出しました。

点検評価委員の皆様には、多くの資料に目を通していただき、長時間にわたり点検したのちに、各事業一つ一つに貴重なご意見をいただいています。

教育委員会では、それらの意見をもとに評価を行い、今後の事業の更なる充実につなげるよう努力しています。

若林　由美子　教育委員

学校訪問

栃木市教育委員会では、学校現場の様子について、その詳細を把握するために、毎年10校程の学校へ教育委員による**「学校訪問」**を行っています。

子どもたちと直接ふれ合えるこの機会を、委員はとても楽しみにしています。

学校に訪問して、直接子どもたちとふれ合えることを、毎回楽しみにしております。

休み時間は子どもたちの元気な声にあふれ、授業中は勉強に取り組む真剣な姿。そして、「待ってました!」メニューも豊富で、地元の食材を中心にした美味しく楽しい給食。

みんな生き生きとしていて、でもちょっとシャイで・・・いつも心暖かく、幸せな気分になります。

西脇　はるみ　教育委員

「栃木市版 先生の働き方改革」を進めます！

今年４月に文部科学省が公表した『2016年度の公立校教員の勤務実態調査結果（速報値）』によると、学校内勤務時間が週60時間以上の教諭が小学校で約３割、中学校で約６割を占めます。これらの教諭は週20時間以上の時間外労働をしていることになり、厚生労働省が過労死の労災認定の目安としている月80時間超を上回っていると言えます。

このような「教職員の多忙化」は、本市においても例外でなく、連日遅くまで学校で勤務している教職員や休日の部活動等に関わっている教職員も多い状況となっています。

そこで栃木市教育員会としては、この「教職員の多忙化」を解消して‘先生が子どもたちに対してじっくりと向き合う時間’を確保するために、**『栃木市版 先生の働き方改革』**を進めています。

栃木市版「先生の働き方改革」の主な特徴

- ○現場の声をよく聴く→**教職員対象の実態・意識調査を実施**します。
- ○教職員の取組への意識を高める→**ガイドラインを作成**します。
- ○本市ならではの‘学校・家庭・地域の連携協働’を活用する→**「とちぎ未来アシストネット」により進めた‘地域から学校への支援活動’を業務改善**に活かします

学校の抱える課題が複雑・多様化している中で、学校に求められる役割も拡大し、教職員の多忙化が問題になっています。

多忙化の原因は様々あるでしょうが、教職員の個々の頑張りに期待しているだけでは解決につながりません。業務の適正化など環境の整備を組織的に取り組んでいくことが必要です。

先生のゆとりは子どもの輝きに直結するのは確かですから、先生が心身ともに健康で、やりがいをもって仕事ができる働き方を考えていくべきだと思います。

荒川　律　教育委員長職務代理

教育長通信

今が‘旬’学力向上の‘腕’の見せどころ　磨きどころ

学校教育の充実を図るうえで大切とされる‘学力の向上’。今こそ、各学校の‘腕’の見せどころ、また、磨きどころです。今年度行われた「学力調査」の結果を踏まえ、小中一貫教育＆コミュニティ・スクール、家庭・地域との連携・交流を進める中で、何より、日頃の授業改善に直結する、授業研究や教材研究での「切磋琢磨」を、学校では最大限に大事にするべきと考えます。

その際、一人一人の‘学び’に真の実りをもたらすであろう**‘とち介の学び’**を手元において参考にすること、研究校の成果を全ての学校で共有化することを心掛けてほしいものです。

「とち介の学び」～子どもたちの確かな学力の育成のために～

- **と**・・・**とっても大事な「ねらい」の提示**
- **ち**・・・**挑戦しよう！知識や技能を活用した問題解決的な学習**
- **す**・・・**筋道立てて　考えて　自分の言葉で　言語活動**
- **け**・・・**決して　はずせぬ「振り返り」**

※栃木市教育委員会では、各学校でのよりよい授業づくりを図るため、「とち介の学び」を提唱しています。

※この内容は、10月に行われた栃木市定例校長会での話から抜粋したものです。　教育長　赤堀　明弘

【編集後記】

“教育委員会だより　絆”は本年度より、「栃木市の教育」に関する情報提供を充実させるため、発行回数を増やし、年３回発行しています。栃木市教育委員会が市民の皆様にとって、より身近な存在になることを願っています。

※ご意見・ご感想はこちらまでお寄せください。
栃木市教育委員会教育総務課　〒328-8686 栃木市万町９-25
電話：0282-21-2461 FAX：0282-21-2689　Email：kyoumu@city.tochigi.lg.jp